

田子の浦港 <重要港湾>



所在地：富士市

田子の浦港は、駿河湾の最奥部に位置し、富士山麓の南を流れる沼川と潤井川の合流点に建造された掘込式港湾です。

昭和36年に供用を開始し、昭和39年には重要港湾に指定され、地域経済の成長とともに、工業港として順調に発展してきました。背後には豊富な工業用水を活用した製紙、化学工業等の製造業が多く立地し、本港はこれら企業の原材料供給基地としての役割を担うなど、海上輸送網の拠点となっています。

令和元年の取扱貨物量は、外貿91万トン、内貿239万トン、合計330万トンで、県内港湾第2位の貨物量となっています。近年の主な取扱貨物は、セメント、石油製品、石炭、とうもろこし、鋼材、紙・パルプなどです。

また港湾背後で稼働中の火力発電所が、燃料を石炭から再生可能エネルギーのバイオマス燃料へと転換することから、木質ペレットの取扱いが予定されています。

本港では港湾計画に基づき、船舶の大型化に対応した-12m岸壁や航路・泊地、大規模地震災害時の緊急物資輸送を可能とする耐震強化岸壁の整備を進めるとともに、富士山に最も近い港として、その眺望を活かしたクルーズ船の誘致や緑地整備に地域一体となり取り組んでいます。

西岸の「ふじのくに田子の浦みなと公園」では、歴史的な教育施設としてロシア船「ディアナ号」を模した展示棟、眺望施設「ドラゴンタワー」などを整備。県内は勿論、県外や海外から多くの観光客が訪れています。

東岸の「鈴川海浜スポーツ公園」では、「スポーツと躍動」をテーマとし、グラウンドゴルフやパークゴルフ、サッカーなどが行われ、また、最近ではサイクリングの休憩場所としても人気があります。

両公園とも、海拔0mから富士山頂を目指す「富士山登山ルート

工場夜景



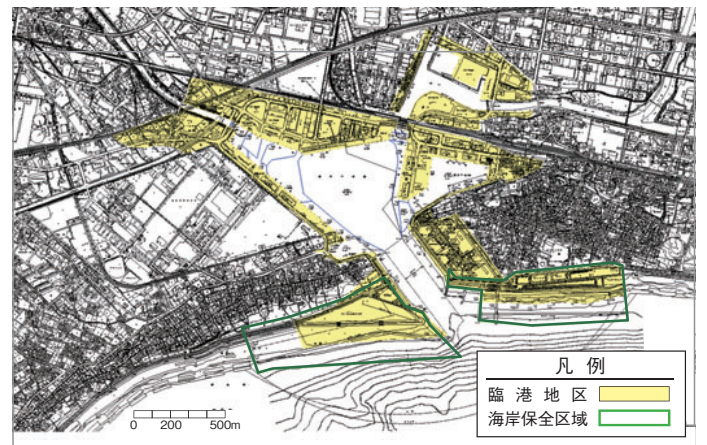
3776」の起点となっており、公園の活用とともに、「富士山しらす街道」と連携し、漁船溜りを中心とした交流拠点づくりに富士市と一体となって取り組んでいます。

令和元年には田子の浦港漁協食堂を代表施設として一連の施設が「みなとオアシス」に登録され、さらなるにぎわい創出につながることを期待されます。

環境対策としては、平成12年1月にダイオキシン類対策特別措置法が施行され、平成14年9月に新たに環境基準値が定められたことを受け、平成16年度から港内海底の環境基準値を超える汚染底質土砂を除去する公害防止対策事業を実施しています。



石炭船の荷役風景



海岸保全区域延長：2,042m (重複所管を含む)

ふじのくに田子の浦みなと公園



鈴川海浜スポーツ公園



田子の浦港の規模とけい留能力

港湾区域面積	138ha	臨港地区面積	109ha		
公共岸壁けい留施設					
-12.0m	~-10.0m	~-9.0m	~-7.5m	-4.5m	-4.5m未満
2バース	1バース	1バース	7バース	14バース	619m



所在地：御前崎市・牧之原市

御前崎港は、駿河湾の湾口部に位置し、外洋である太平洋を目前に、海上輸送網の拠点としての立地に恵まれた港です。

昭和50年の重要港湾指定、平成3年のRORO船定期航路の開設、平成9年の完成自動車輸出の開始、平成16年のコンテナクレーン2基と-14m岸壁を有する国際物流ターミナルの供用開始など、多目的港として発展を遂げてきました。

令和元年の取扱貨物量は、外貿166万トン、内貿120万トン、合計286万トン、コンテナ取扱個数は、外貿1.8万TEU、内貿2.2万TEU、合計4.0万TEUとなっています。

本港背後では、平成21年に富士山静岡空港が開港し、平成23年には地域高規格道路「金谷御前崎連絡道路」が整備されたことにより、本港から東名高速道路、空港までが「つながり」交通アクセスが大幅に向上しました。今後は、「金谷御前崎連絡道路」の国道1号及び新東名高速道路までの延伸により、陸・海・空の交通ネットワークが一層強化され、県中西部のものづくり産業を支える物流拠点としての役割がさらに拡大していくことが期待されます。

また、本港近隣の風光明媚な海岸線は、海洋レジャーの拠点としても脚光を浴びており、「みなと」を通じたイベントが継続的に行われていることが評価され、平成27年には国土交通省から「みなとオアシス」に登録されました。特に、下岬地区に整備した多目的海浜公園「マ

■ 自動車運搬船（奥）とRORO船（手前）

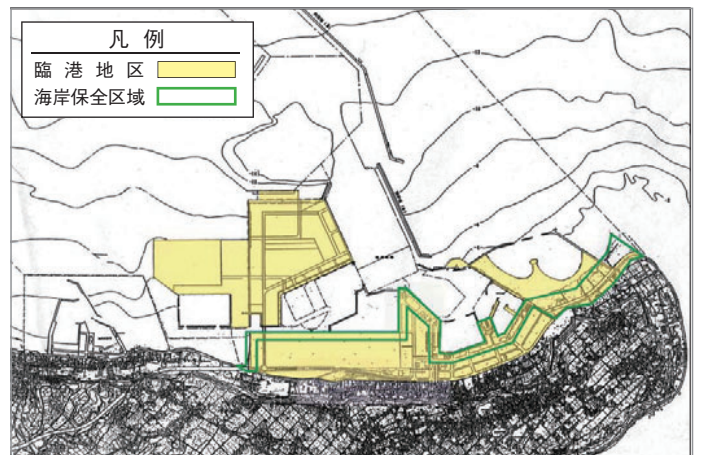


リンパーク御前崎」の人工海浜では、東ビーチが海水浴場、西ビーチがマリンスポーツに利用され、例年多くの観光客が訪れています。さらに、令和2年8月には「釣り文化振興モデル港」に指定されました。

今後は、「みなとオアシス」を活用した多様なサービスの提供や釣り文化振興の取組により交流人口の拡大を図るなど、御前崎港を活用した一層の地域振興に取り組んでいきます。

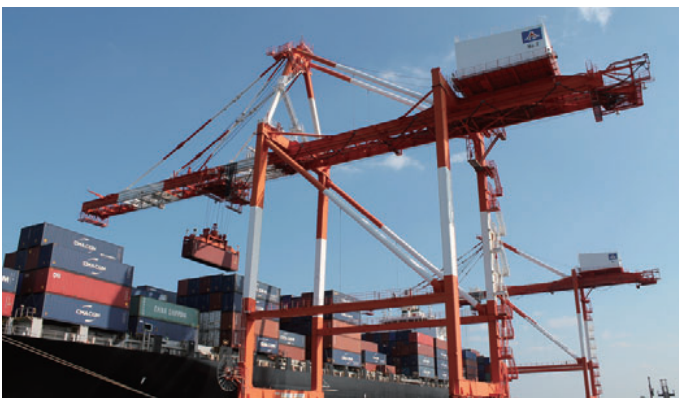


■ マリンパーク御前崎



海岸保全区域延長：3,643m

■ コンテナの荷役風景



■ 御前崎港の規模とけい留能力

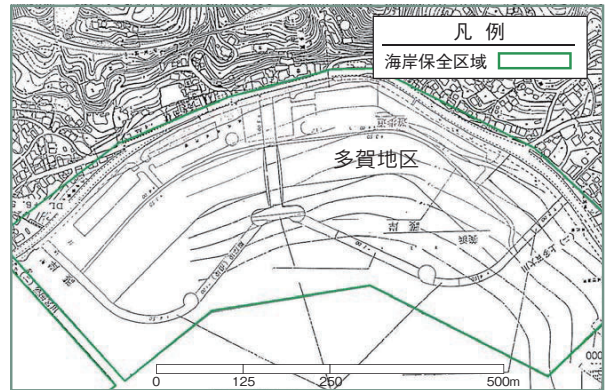
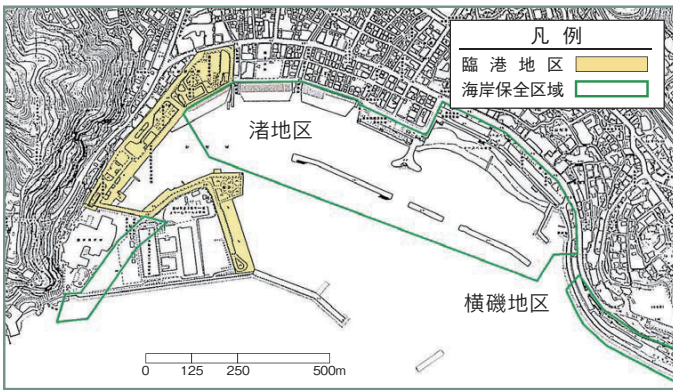
港湾区域面積	1,450ha	臨港地区面積	191ha	
公共岸壁けい留施設				
-14.0m	~-12.0m	~-7.5m	~-4.5m	-4.5m未満
1バース	2バース	5バース	13バース	1,684m
専用、その他けい留施設		2バース		



写真提供：国土交通省中部地方整備局



写真提供：国土交通省中部地方整備局



海岸保全区域延長：5,795m（重複所管を含む）

所在地：熱海市



熱海港は、全国有数の観光都市である熱海市の市街地に面し、年間60万人の伊豆大島及び初島行き旅客船の乗降客や、年間22万人の海水浴客等で賑わう観光港です。

渚地区では、平成2年に海岸環境整備事業により延長400mの人工海浜「熱海サンビーチ」が完成し、臨海部に新たな賑わい空間が創出されました。平成15年からは全国初の砂浜ライトアップを実施しており、昼夜を問わずに観光客が訪れるエリアとなっています。さらに、「地中海風リゾート」を意識したデザインを取り入れた親水緑地「渚親水公園」の整備を進めており、全4工区中3工区まで完成し供用されています。前面水域には民間マリーナが併設され、熱海市街地のリゾートホテル群と一体の景観を形成しています。

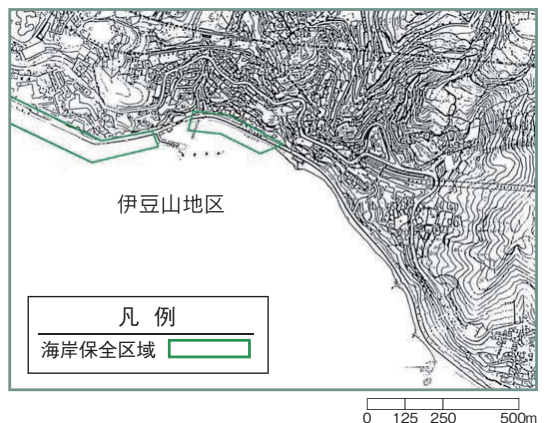
平成31年には、和田磯防波堤を釣り施設として開放する取組が認められ、「釣り文化振興モデル港」に指定されました。

近年は船上から花火を楽しむ「花火クルーズ」でクルーズ船「につぼん丸」が毎年のように寄港しています。

また、熱海市南部の多賀地区においては、平成22年に人工海浜「長浜海浜公園」の北工区延長約400mが完成し、年間4万人の海水浴客が訪れる観光拠点となっています。



写真提供：国土交通省中部地方整備局



渚親水公園



熱海港の規模とけい留能力

港湾区域面積	700ha	臨港地区面積	7ha
公共けい留施設	-7.5m	~-4.5m	-4.5m未満
	1バース	4バース	645m

白石～新井地区

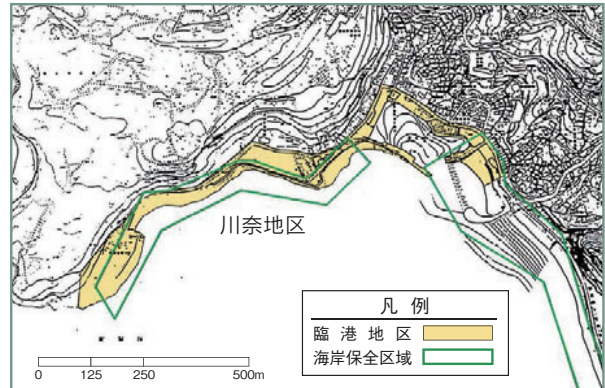
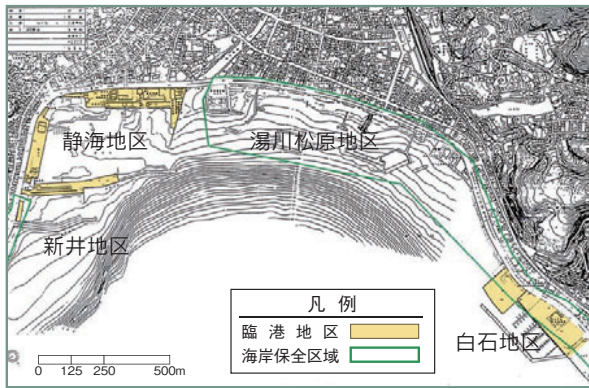


写真提供：国土交通省中部地方整備局

川奈地区

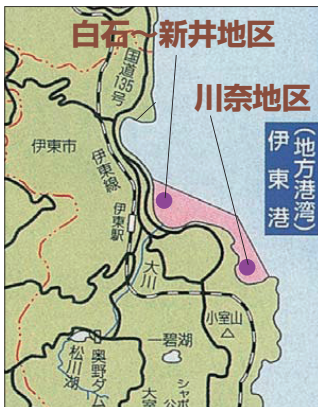


写真提供：国土交通省中部地方整備局



海岸保全区域延長：6,353m

所在地：伊東市



伊東港は、古くから水産物の水揚基地としての役割を果たしてきました。背後の伊東市が「国際観光温泉都市」として発展するのに伴い、現在では観光港としても重要な役割を果たしています。

湯川松原地区では、海岸環境整備事業によって延長630mの人工海浜「伊東オレンジビーチ」が整備され、多くの海水浴客が訪れています。

白石地区では、観光拠点として「伊東サンライズマリーナ」と併設する道の駅「伊東マリンタウン」が令和3年に20周年を迎え、年間200万人以上が訪れる施設（温泉、商業、遊歩道、遊覧船の発着所など）に定着し、伊豆東海岸の海洋性レクリエーションの拠点となっています。

また、静海地区では、伊豆大島行き旅客船や島民向け物資を運ぶ定期貨物船が発着する観光桟橋を改良し、旅客の安全性確保と貨物取扱能力の向上を図っています。

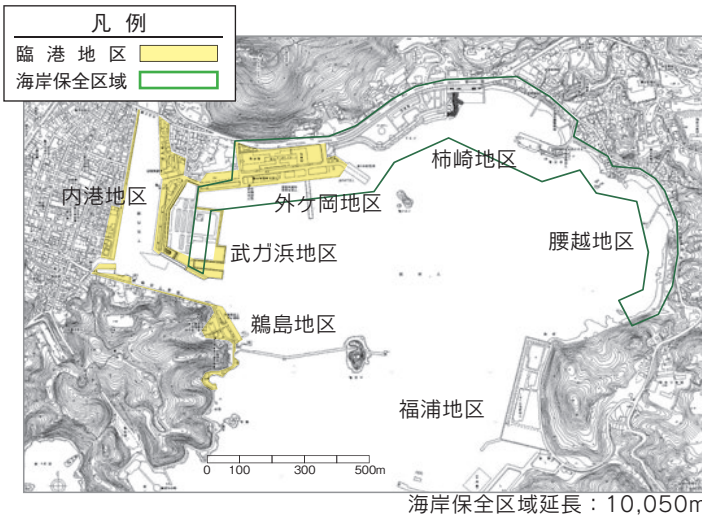
■ 伊東サンライズマリーナ



■ 伊東港の規模とけい留能力

港湾区域面積	610ha	臨港地区面積	16.5ha
公共けい留施設	-7.0m	~-4.5m	-4.5m未満
	2バース	7バース	1,628m
専用、その他けい留施設	-1.2m以下：74m		

毎年8月に行われる「按針祭」では、クルーズ船「飛鳥II」にて伊東沖から花火を眺めるツアーが人気となっています。



所在地：下田市

下田港は、幕末にペリー艦隊が入港し、開国の舞台にもなった歴史のある港であり、伊豆諸島と定期航路がつながっています。

一方、下田港沖は地形、海象条件が厳しく、海難事故の多発海域となっています。

このため、下田港では、昭和28年から避難港整備事業により整備した防波堤に続き、昭和55年から、港口部において国直轄事業により津波対策を兼ねた外港防波堤の整備が進められています。また、台風襲来時等における避難船対策として、平成18年度から物揚場の整備を進めています。

地域振興としては、平成28年2月からの下田港客船誘致協議会の活動により、同年4月に外国のクルーズ船「ル・ソレアル」が寄港しました。また、平成15年度に完成した、緑地・遊歩道・人工海浜等を合わせ持つ「まどが浜海遊公園」は、隣接する道の駅と併せてにぎわいの拠点として大きな役割を果たしています。

■ 外ヶ岡物揚場

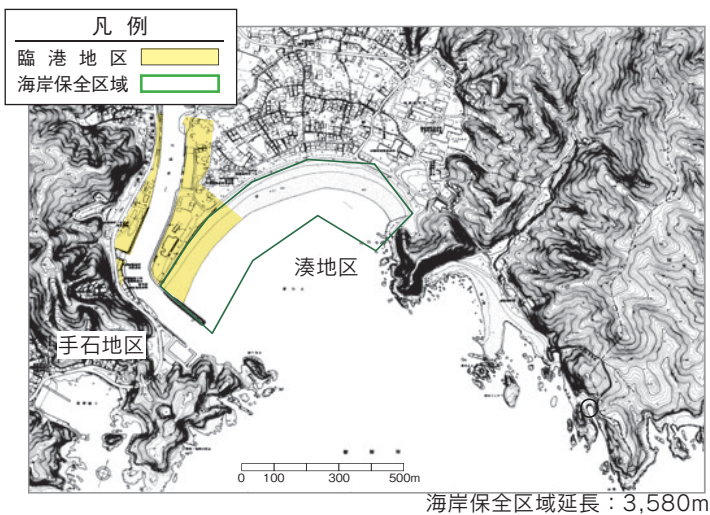


■ まどが浜海遊公園



■ 下田港の規模とけい留能力

港湾区域面積	266ha	臨港地区面積	10.4ha
公共けい留施設	-6.0m	~-4.5m	-4.5m未満
	1バース	3バース	1,920m



弓ヶ浜海水浴場



所在地：賀茂郡南伊豆町

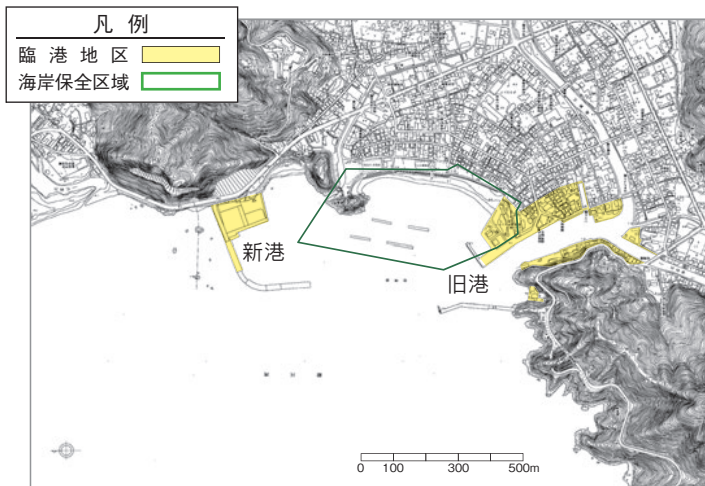
手石港は青野川の河口部に位置し、古くから風待避難港として発展してきました。

戦後、沿岸漁業等の地元漁船の基地港として物揚場や導流堤等が整備・利用されると共に、付近に岩場やダイビングスポットがあることから、遊漁船やダイビング等の観光船が集う観光港としても利用されています。

海岸線は「弓ヶ浜」として名高く、伊豆半島屈指の海水浴場としてにぎわっています。

手石港の規模とけい留能力

港湾区域面積	66ha	臨港地区面積	9.4ha
公共けい留施設			-4.5m未満
	466m		



松崎海岸



所在地：賀茂郡松崎町

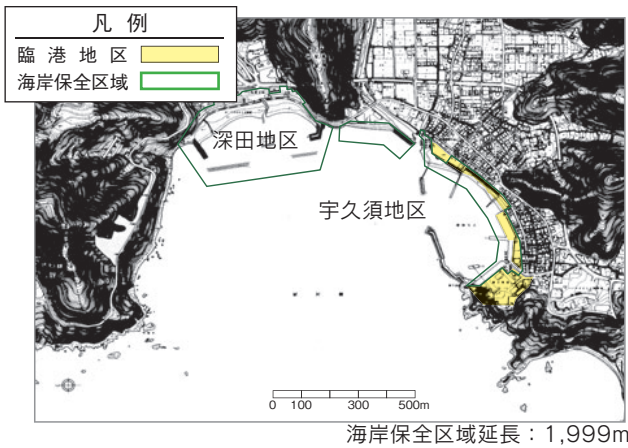
松崎港は、伊豆西海岸に位置し、近海漁業の基地として発展してきました。平成12年には沼津港とともに地域の振興、活性化の観点から重要な港であるとして「特定地域振興重要港湾」に選定され、平成14年3月の松崎港港湾振興ビジョン策定により観光及び地域産業の活性化を図っています。

平成4年より石材等の積出港としての物流機能強化及び伊豆西海岸における防災機能強化のため、市街地北側の江奈地区において新港の整備に着手し、平成22年に完成しました。現在、石材の搬出入や各種防災訓練に利用されていますが、港を活用し

た地域振興として、クルーズ船等の誘致活動等に取り組んでいます。

松崎港の規模とけい留能力

港湾区域面積	150ha	臨港地区面積	6.0ha
公共けい留施設	-6.0m	~ -4.5m	-4.5m未満
	1バース	1バース	735m



所在地：賀茂郡西伊豆町

宇久須港は、背後の山地で盛んに産出された建設用の砂利やガラス原料である珪砂（現在は閉山）の積出港として発展してきましたが、現在は、石材の搬入港として利用されています。

深田地区にある伊豆半島最大規模の公営海岸キャンプ場は、平成6年にオープンした海水浴場とともに、毎年大勢の観光客でにぎわっています。

津波対策として、西伊豆町と連携し、既存の大型防潮堤門扉や水門を遠隔監視制御する津波防災ステーションの整備を進めています。

■ 宇久須港の規模とけい留能力

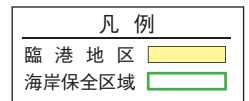
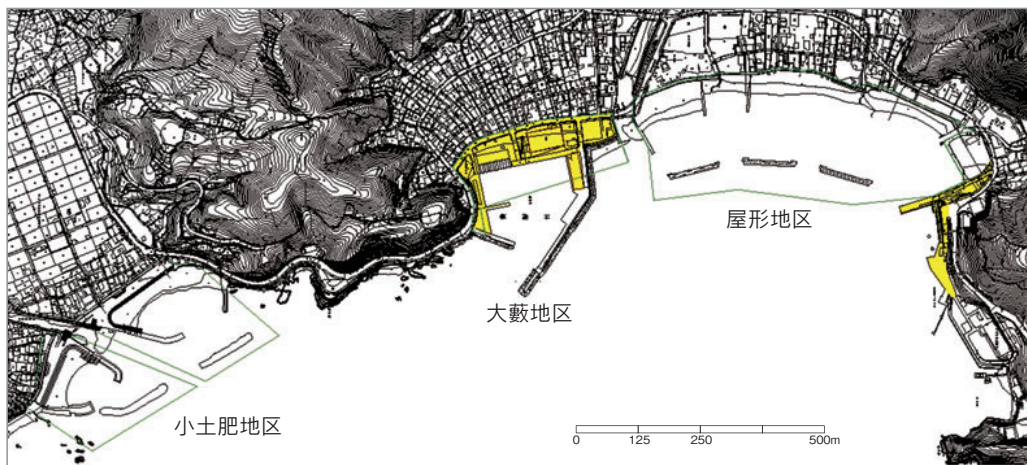
港湾区域面積	103ha	臨港地区面積	3.5ha
公共けい留施設	-5.5m	~-4.5m	-4.5m未満
	1バース	1バース	419m

■ 公営海岸キャンプ場



■ 津波防災ステーション





海岸保全区域延長：1,996m

所在地：伊豆市

土肥港は、静岡市と伊豆地域を結ぶ海上の「みち」である県道223（ふじさん）号を航路とし、清水港までを65分で行く駿河湾フェリーが寄港する海上交通の要衝であり、伊豆地域の海の玄関口としての役割を担っています。

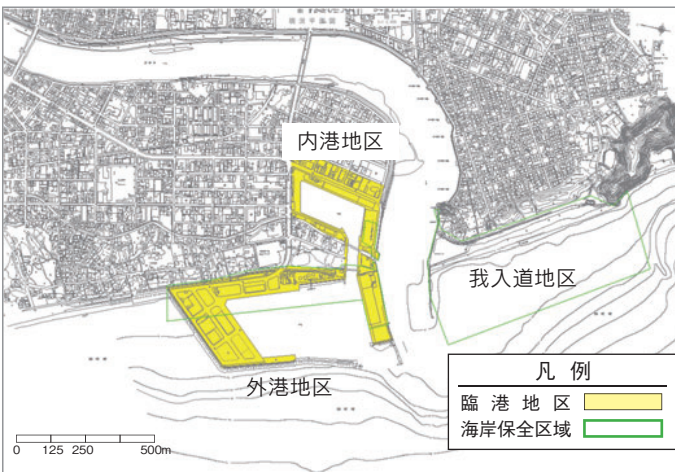
また、海岸環境整備事業で人工海浜などが整備された屋形、小土肥海岸は、毎年多くの人々に海水浴場として利用されており、地域の観光交流拠点となっています。

土肥港の規模とけい留能力

港湾区域面積	270ha	臨港地区面積	3.3ha
公共けい留施設	-4.5m	-4.5m未満	
	1バース	470m	
専用けい留施設（フェリー接岸ドルフィン）			1バース

フェリー乗り場





海岸保全区域延長：1,529m

所在地：沼津市

沼津港は、豊富な海産物や砂、化学薬品等を取り扱う県東部の物流拠点、伊豆地域への玄関口としての交流拠点、大規模災害時に緊急物資の受入れなどを行う防災拠点といった多くの役割を担っています。

平成12年に松崎港とともに「特定地域振興重要港湾」に選定、平成14年に「沼津港港湾振興ビジョン」が策定され、この計画に基づき、平成16年の展望台機能を備えた大型航路水門“びゅうお”、平成19年の水産複合施設“INO（イーノ）”、平成21年のマーケットモール「沼津みなと新鮮館」の開業など、県、市、民間が役割分担し港のにぎわいづくりを進めてきました。

平成27年には、新たな振興ビジョンとなる「沼津みなとまちづくり推進計画」が策定され、行政、民間を問わず、地域ぐるみで沼津港の資源を活かしながら、地域の協働のもと港とまちの魅



■ 沼津港航路水門“びゅうお”



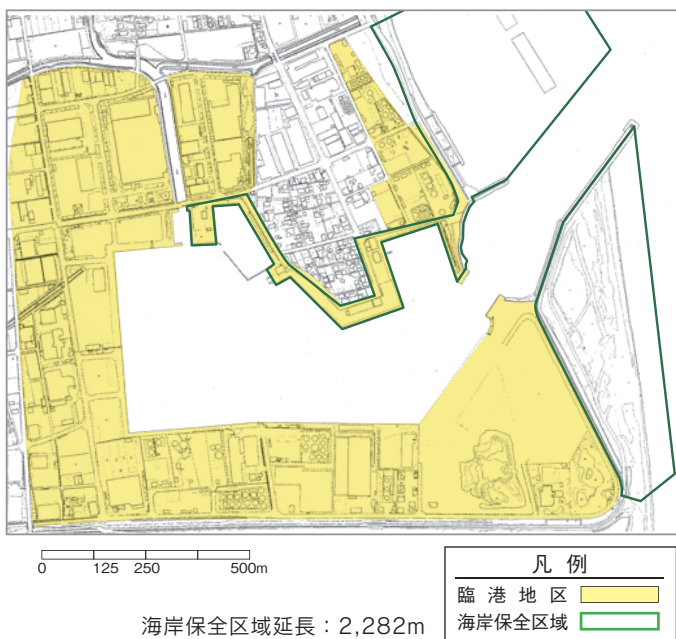
■ 沼津みなと新鮮館

力をさらに高めることで、「みんなで創り、みんなが集うガーデンポート」の実現を目指しています。

こうした取組の結果、平成18年に年間約93万人だった観光客数が、平成30年には約166万人にまで増加しました。

■ 沼津港の規模とけい留能力

港湾区域面積	145ha	臨港地区面積	20.3ha
公共けい留施設	-7.5m	~-4.5m	-4.5m未満
	3バース	5バース	1,272m



所在地・港湾管理者：焼津市

大井川港は、大井川河口左岸に建設された掘込式港湾で、昭和37年に地方港湾の指定を受けて建造に着手し、昭和39年に第一船が入港しました。

県内唯一の市営港湾で焼津市が管理し、県内第4位の取扱貨物量を誇ります。

数次にわたる港湾整備計画により公共石油バースや民間の石油専用バース・石油岸壁等が整備され、石油製品の取扱いに特化した港として発展してきました。

また地震津波対策として、平成23年度に耐震強化岸壁、平成25年度に津波避難タワーを整備しました。平成30年度からは、胸壁の新設工事を進めています。

■ 大井川港胸壁（整備中）



■ 第19回 踊夏（おどらっか）祭



■ 大井川港の規模とけい留能力

港湾区域面積	152ha	臨港地区面積	102ha
公共けい留施設	-7.5m	~-4.5m	-4.5m未満
	5バース	12バース	963m
専用、その他けい留施設		4バース	